

意外と知られていない!? 豊富な温泉に出会うことができる道東!

大自然と触れ合える温泉



国後島で育った元島民の方は、「海岸に湧き出ている温泉と海の中に出たり入ったりして、飽きることなく遊んだなあ」と当時の国後島の温泉での思い出を語ります。

ただの露天風呂ではない!

羅臼の野湯「熊の湯」

野湯がある噂を聞きつけ羅臼の「熊の湯」へ。

その日は、サケ漁を営む漁師の方と、小学校の先生をされている地元のお二方と遭遇しました! お話によるとこの温泉は地元の漁師たちが日々の漁の疲れを癒すために作られたそう。驚くのは温泉の温度! 火傷するかと思うほど熱い源泉が流れており、漁から帰った漁師さんたちが冷え切った体を芯から温めている。現在では漁師さんをはじめとした有志の地元保存会の方が当番制で毎朝清掃をしているのだとか。



▲熊の湯の入り口



▲外観です。扉を開けると脱衣所があり、その奥に温泉があります。露天混浴です。



▲岩場に湧く天然の露天風呂になっています。

「熊の湯」の名前とおり、年に1、2回は熊が出没して温泉が封鎖されるそう!



根室と国後島を結んでいた!? 現在も残る海底ケーブル

根室国後間海底電信線陸揚施設

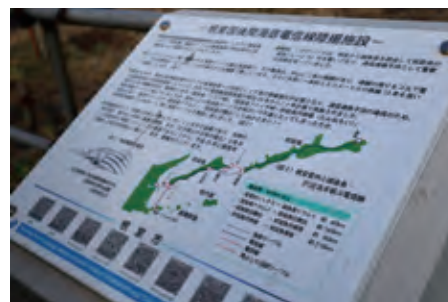
北方四島に残された日本人の印。

根室と国後島を繋ぐ通信用海底ケーブルの陸揚施設「根室国後間海底電信線陸揚施設」。電信線は明治時代に通信省(ていしんしょう)が根室から国後島を経由して択捉島まで設置し、建物は電話線開通頃(昭和10年頃)の建設と考えられています。戦前、根室から国後島を経由して択捉島の薬取(しべとろ)村を繋いでおり、通信連絡手段として重要な役割を担っていました。



英米の密漁船対策やロシアの東進政策への対策として千島の警備強化が必要となり、通信連絡手段確保のために用意されましたが、1946年、ソ連軍に利用されるのを恐れて陸揚庫のところでケーブルが切断され、海中に投棄されたことが分かっています。

2021年10月には、国後島とのつながりを示す歴史的遺構として登録有形文化財に登録されました。



総延長: 500km 以上

- 根室村ハッタラ~国後島ケラムイ 約40km
- 国後島ケラムイ~国後島白糠泊 約145km
- 国後島白糠泊~択捉島丹根萌 約60km
- 択捉島丹根萌~択捉島薬取 約210km

(出典) 根室市公式HP
<https://www.nemuro-kankou.com>

電信線で国後島・択捉島まで繋がっていたことを示す歴史的及び象徴的な建物、つまり北方四島に日本人が住んでいたことを示す証拠であり、当時の姿を残す非常に貴重な建物です。